

令和4年度 第4回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

1 日時

2022年(令和4年)7月2日(土) 午後1時 ~ 午後5時

2 場所

藤沢市役所本庁舎5階5-1会議室

3 出席者

(1) 委員 8人

山岡委員長、坂井副委員長、細沼委員、関野委員、新實委員、大場委員、豊福委員、樋口委員

(2) プレゼンテーション参加団体 計8団体

<スタート支援コース> 2団体

・すまいるらぼ ・特定非営利活動法人ぐるんとびー

<ステップアップ支援コース> 6団体

・NPO 法人とことこ ・湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会

・NPO 法人紙芝居 Project ・Rankup ・特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画

・湘南市民ワークショップ

(3) 市側 6人

平井部長、日原参事、森主幹、一瀬上級主査、緒方専任主査、川島主任

(4) 伴走支援者 1人

関内イノベーションイニシアティブ株式会社 高瀬氏

(5) 傍聴者 1人

4 議題

令和4年度ミライカナエル活動サポート事業(スタート支援コース・ステップアップ支援コース)の審査選考(2次審査)について

(1) プレゼンテーション(公開)

(2) 審査選考(非公開)

5 開催概要

開会

藤沢市市民活動推進委員会

○事務局の平井部長より冒頭に挨拶が行われた。

(山岡委員長) ただいまから令和4年度第4回藤沢市市民活動推進委員会を開会いたします。初めに、委員会の成立要件について事務局よりお願いいたします。

○事務局より成立要件について説明が行われた。

(山岡委員長) 本日はスタート支援コース・ステップアップ支援コースのプレゼンテーション審査となりますので、この後の進行につきましては、坂井部会長にお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

スタート支援コース・ステップアップ支援コース審査選考部会

(坂井部会長) それでは、スタート支援コース・ステップアップ支援コース審査選考部会を開会いたします。

プレゼンテーションに先立ちまして、本日、審査に当たる委員を紹介させていただきます。それでは、順番に自己紹介をお願いします。

○各委員より自己紹介が行われた。

(坂井部会長) 以上の委員により対応させていただきます。よろしくをお願いいたします。

それでは、事務局より、資料確認及び本日の日程等について説明をお願いします。

○事務局より、資料確認及び日程等について、説明が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(1) プレゼンテーション

<スタート支援コース>

①すまいるらぼ

(坂井部会長) それでは、これよりプレゼンテーションを行っていただきます。

まず、スタート支援コースの団体になります。

すまいるらぼさん、「拠点カルチャーすまいるらぼ事業」について、発表をお願いします。

(すまいるらぼ) 皆さん、こんにちは。このたびスタート支援コースにエントリーしております、すまいるらぼの佐藤、杉本、山本です。よろしくお願いいたします。

私たちの事業概要について。

事業目的は、シニア世代が心身ともに健康で自立し、生き生きと暮らす環境づくりに貢献する。

事業内容は、次の3点になっております。これは後ほど詳しく説明いたします。

現在、登録人数は22名となっております。

きっかけは「スキヤキ体操」ということで、昨年8月、TEAM SMILEYとして藤沢生涯学習人材バンクに登録いたしました。

私たちはもともと、辻堂にありますダンススタジオで大人ダンスを楽しんでいる仲間です。ダンスの指導者であり、スキヤキ体操考案者のHANA先生が、ダンスを通してみんなを笑顔にしようと、スキヤキ体操広め隊集まれ！ということで集まったのが私たちです。

スキヤキ体操というのは、みんなが知っているスキヤキソングに合わせて、シンプルな動きをして、子どもからお年寄りまで楽しめる体操となっております。

そして10月に任意団体として活動をスタートいたしました。

次に、「すまいるらぼの3つの事業」について説明いたします。

1番は、「シニアダンス事業【FOREVER CHANCE】」。大人ダンスから枝分かれしたシニアダンス。現在50歳から88歳までの仲間が月に2回、1時間ヒップホップのダンスを楽しんでおります。踊ることが楽しくて、汗をかくのが気持ちいいということで、お友達を紹介し、毎回新しいメンバーがふえ、最高齢も更新されております。厚生労働省の「ダンスで健康増進プロジェクト」とも連携し、現在メンバーは53名。このシニアダンスは大変ニーズがあると考えております。

2番目は、「スキヤキ体操サポーター派遣事業【SMILEY】」。こちらは健康サポーターとして地域に貢献することを目的としております。現在、ふじさわボランティアセンターからのご紹介をいただき、市内2カ所に出向しております。長きにわたるコロナの自粛生活で、皆さん、外に出たい、体を動かしたいという要求がふえ、この出向依

頼がふえております。サポーターの育成が必要というふうに私たちは考えており、これも大変ニーズがあると思っております。

3番目は、「拠点カルチャー事業【すまいるらぼ】」。シニアによるシニアのための生きがいプロジェクトとして、このたびミライカナエル活動サポート事業に、この3番でエントリーさせていただきました。コンセプトとしましては「できるを楽しむ」、「わかちあう」、「みんなでつくる」という集いの場、学びの場となっております。

拠点としての「すまいるらぼ」は、辻堂ココテラス湘南の5階にあります。1階に私たちが通うダンススタジオがあります。6月にオープンして、やっとこちらの拠点が立ち上がったばかりの状態となっております。広さは12坪と小ぢんまりした空間でありまして、定員はコロナ対策を考え、10名というふうに決めました。インターネット環境もやっと整い、Wi-Fiがあるので、今後はオンラインサテライト拠点とする可能性も考えております。

こちらの場所は、1階にあるダンススタジオの若者、そしてスタッフの皆さん、そしてシニアの私たちが共有で使うスペースとして活用していく予定です。

実際のすまいるらぼは、こんな感じになっています。リフォームが終わり、落ちついたおしゃれな空間になっていると思います。

次に、「すまいるらぼ」のコンセプトについてお話しします。

0「知る→わかる」→①「できる」→②「教える」→③「広める」、この0番から3番までの流れを、らぼの講座で展開していきたいと考えております。

私たちの活動のきっかけとなり、大変ニーズのあるスキヤキ体操のサポーター養成講座は、私たち出向経験者が、教える側になって、皆さんにレクチャーをし、発案者であるHANA先生の見極めをいただいて、サポーターとして出向する流れをとります。

また、夏休みには、藤沢市子育て企画課のほうで「子どもお出かけ応援事業」をなさるそうなので、こちらとのコラボレーションも考え、子ども向けの講座も企画しております。

さらに、カルチャー講座としては、ITサポート、こちらの右下に私たちが一生懸命勉強している写真が出ているのですが、SNSの使い方とか、ホームページの作り方などを学び、チラシもつくれるようになりまして、このプレゼン資料もやっとなんかできるところまでいきました。これを教えられるようになるように私たちも努力していきたい

と思います。

また、クールダウンヨガ、ラフターヨガ、英会話など、これはメンバーができることを講座展開していきたいと思っております。

今後の課題についてですが、コロナの感染状況が悪化した場合にはどうなさいますかというお問い合わせをいただきました。こちらはまず、ココテラス湘南のルールを遵守したいと思います。また、オンライン講座で対応していきたいと思っておりますので、サテライト拠点にしていくためにも、らぼに常設する共有のパソコンというのが私たちにとって必要な備品と考えております。

また、参加者をふやすために、シニアのダンスメンバーの仲間をふやす、練習してきたことを発表する場をつくるということで、スポーツ推進課と連携いたしまして、11月にねんりんピックが行われますが、その開会式で、キッズと一緒にシニアもダンスを披露する場を設けさせていただいております。また、SNS やホームページを活用してPR をしていったって、仲間をふやしていきたいと考えています。そのためにもやはりパソコンが必要です。

収支予測ですが、補助金や助成金が終わった後にどうやって展開していくかということで、考えられる支出としては、スペースの使用料、人件費、講師謝金、通信料などのランニングコストです。

収入といたしましては、会費、シニアダンスの参加費、これはメンバーをふやすことで対応し、今、交通費をいただいているスキヤキ体操出向も、手当をいただけるように努力してまいります。らぼの講座に関しましても、さまざまな講座を企画し、実行していきたいと思っております。また、スポット的にバザーやイベントなどにも参加して、売り上げを上げていきたいと考えております。

これからの展望としまして、実績を積んで、次年度は、後ろに座っていらっしゃる皆さんのように、ステップアップコースに挑戦してみたいと思っております。そして、思いに賛同してくれる仲間を集め、「地域の縁側」のように地元に貢献できるような、そんな存在になっていきたいと考えています。ひいてはNPO 法人化を目指してまいります。

心身ともに健康なシニアをふやすことで医療費を削減し、介護されずにピンピンコロリ、そして生涯自分の足で歩けるような、そんなシニアになりたいですし、そんなシニアをふやしていきたいと思っております。スポーツ都市宣言した藤沢としてロールモデルにな

れますように、子どもたちに憧れられるような、そんなシニアを目指して頑張っていきたいと思います。

以上となります。ご清聴ありがとうございました。

(坂井部会長) それでは、発表が終わりましたので、委員の方から質問がありましたらお願いいたします。

(山岡委員) 今回の申請の事業のカルチャー拠点では、講座とかをなさるわけですね。いろいろな養成講座やカルチャー講座をなさるとのことだと思うんですけども、参加者を募ることになると思います。その参加者はどうやって募るのかということと、どういう人を対象に募るのか。参加者募集のやり方とか、対象を教えてくださいませんか。

(すまいるらぼ) まずはダンスに通う仲間から、要は影響の輪を広げていくということを考えています。まず、ココテラスに足を運んだことのある方たちから、らぼを知っていただくようにして、その方たちからのご紹介をいただいたり、SNS を使って、こんなことをしていますよというような、そんな発表をしていきたいと思います。

そして今回、夏休みの「子どもお出かけ応援事業」という企画が、大変ありがたい企画だと思うんですけども、そういう企画を活用させていただいて、広く一般の方たちにも、すまいるらぼの存在を知っていただけるようにしたいと思っております。

(山岡委員) そうしますと、「事業目的」のところに「シニア世代が」と書いてありますが、最初はお仲間内ということなので、シニア世代になるかもしれないんですけども、別にこれはシニア世代を対象にしたものではないという理解でよろしいですか。

(すまいるらぼ) そうですね。私たちがシニア世代なんですけど、シニアだけしか入れないよということではなくて、むしろこんなことをやっているシニアがいるから応援したいなと思う多年齢というんですか、いろいろな世代の方たちとも交流していけるといいなと考えております。

(山岡委員) そうすると、ここの会場の定員が10名です。仲間内に声をかけたら、10人ぐらい集まってしまって新しい人が入れないということが懸念されるかなと思ったんですけども、そこはどのように考えておられますか。

(すまいるらぼ) スペース的にはそうなんですけど、ココテラス湘南というのは、皆さんご存じのとおり公的な立ち位置のビルでして、子どもとエコに特化しているビルなんです。

そちらで今回、夏休みの「子どもおでかけ応援事業」は、会議室を無料で貸し出してくださるんですね。なので、いつものすまいるらぼの中だけでやっているとなると、限られた空間になるんですけども、ココテラスさんのご協力をいただいて、広い場所で、多くの方たちに活動を知っていただく機会を得られると考えております。

(坂井部会長) ほかにいかがでしょうか。

(すまいるらぼ) スキヤキ体操を実演してもいいですか。せっかく2人が脇にいてくれていまして、実際に彼女たちは「地域の縁側」さんとか、あとはボランティアセンターにご紹介いただいた母子寡婦さんのところに出向しておりますので、よかったら短い時間でもスキヤキ体操を披露させていただけたらうれしいんですが、いかがでしょうか。

(坂井部会長) では、短い時間で。

(すまいるらぼ) ありがとうございます。よかったら、ぜひ一緒に。

(ダンス実演)

(すまいるらぼ) ありがとうございました。

スキヤキソングというのは、皆さんご存じの「上を向いて歩こう」で、ワールドワイドな誰でも知っている曲です。今は立ってやったんですけども、ちょっと高齢の方とかは、座った形でもできるようにしております。その場に合わせて展開できる楽しい体操になっているかと思います。

(坂井部会長) 雰囲気はよくわかりました。

委員の皆様、ご質問いかがでしょうか。

では、私から伺います。参加者がだんだんふえていくといいなと思うのですが、場所の制約もある。今広いところもお使いになるということでしたけれども、どのくらいの将来的なイメージを考えていらっしゃるのか。広がりとか、あるいは会場参加者の人数とか、その辺のイメージをお持ちでしたら、お願いしたいと思います。

(すまいるらぼ) まず、拠点カルチャーに絞りますと、定員が10人なんですが、私たちの事業というか活動には3本の柱があります。

2番目のスキヤキ体操に関しては、今のスキヤキ体操を外に向けて、出向させていただく。

1番目のシニアダンスに関しましては、スタジオはすまいるらぼではなく、ダンススタジオのほうを使います。ダンススタジオの定員に合わせて、10人でダンスはちょっ

と寂しいので、もう少し広いスペースで、多い人数で活動できるようになってくると思います。そこにいる方たちの中から、自分の得意を生かしたり、これができるようになりたいということ、逆に少人数で、回数多くやっていきたいなど、らぼの拠点の活動としてはそのように考えております。

(坂井部会長) 最後にもう一点だけ。広がったときに、今やる場所は想定しているのですけれども、逆に、皆さんがいらっしゃる場所へ行って、そこでやるとか。例えばご老人の方々が集まっているような老人ホームとか、そういうところへ出かけて、やるということは考えにはあるのでしょうか。

(すまいるらぼ) 2番目のスキヤキ体操に関してはそうです。

拠点カルチャーに関しては、正直申し上げて先月やっとオープンしたばかりで、本当に手探り状態です。今回私たちは立ち上げ期ということで、来年になったらもう少しすてきなプレゼンテーションができるかなとも思うのですけれども。

スキヤキ体操に関しては、今のところは社会福祉団体とか、あと病院のほうからも少しお声をいただいている状況なので、まず、自分たちのスキルを上げて、依頼をいただいたときに、喜んで伺いますと言えるような、そんな体制をつくりたいと思っています。

(坂井部会長) もし補助金の対象になれば、まずはしっかりと拠点事業のところをちゃんと育てていきたいということですね。

(すまいるらぼ) そうですね。あとは、遠隔の方からスキヤキ体操を知りたいのですがというリクエストをいただいた場合に、パソコンがあれば、遠隔で、オンラインの講座とかも展開できるかなと思ひまして、このたびはパソコンを申請させていただきました。

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、以上で終了いたします。お疲れさまでした。

(団体入れ替え)

②特定非営利活動法人ぐるんとびー

(坂井部会長) スタート支援コース、特定非営利活動法人ぐるんとびーさん、「産前産後ケア事業 “No! 孤育て”」について、発表をお願いします。

(特定非営利活動法人ぐるんとびー) こんにちは。特定非営利活動法人ぐるんとびーの南悠と申します。

「産前産後ケア事業の子育て」について発表させていただきます。

本日はこのような流れでお話を進めさせていただきます。途中、スライドの順番が前後する部分がございますが、皆さんにわかりやすくお伝えしたいと思いますので、画面のほうに注目して聞いていただけますと幸いです。

自己紹介です。

特定非営利活動法人ぐるんとびーは、地域を大きな1つの家族に、地域と人とを結びつける取り組みを行っております。

このたび当団体の活動の1つとして、自分たち一人一人が地域の課題や問題に対して活動や行動を起こしていくことが必要であると考え、自主プロジェクトとして立ち上げ、申し込みさせていただきました。

私の自己紹介です。

理学療法士、ヨガインストラクターであり、1人目の出産後は、妊娠前と比べて、筋力、体力がとても落ち、授乳や抱っこ、赤ちゃんのお世話をするのですごくいっぱいでした。2人目の妊娠中には腰痛があり、歩くのもやっとで、びっこを引きながら仕事をしていました。そこで、妊娠中から産後にかけての体のつらさをどこの誰に相談していいのかわからず、とてもつらい経験をしました。

そんな経験から、母親たちを救いたいと思い、産前産後リハビリや産前産後ケアの勉強を始め、2020年より湘南大庭地区にて、地域の母親向けに産前産後ケアの活動を行っております。

スライドが前後します。

今回のミライカナエル活動サポート事業を通して、藤沢市の産前産後ケアの充実を図りたいと思っております。

事業の背景です。

女性にとって妊娠、出産は本当に大きなライフイベントです。その大きなライフイベントの中で、体の変化もとても大きいです。妊娠前の子宮の大きさは、Mサイズの卵1つ分です。そこから出産前、臨月になると、赤ちゃんは大体2500グラムから、大きいと4000グラムぐらいあると思うのです。想像していただけますと、このくらいの子宮が、このくらいの赤ちゃんをお母さんの体の中で支えなければいけない。そうになると、お母さんの体を支えている筋肉や靭帯にもすごく負担がかかります。

そして、地域の声として、出産してから周りに「助けて」と言える環境がなかなか少

ないこと。また、妊娠したときからのつながりが必要。自分のことで精いっぱい子どもに向き合う余裕がない。このテーマでもある「孤立」の「孤育て」に直面している母親たちがたくさんいます。

この事業を通して、約100人前後のお母さんたちの声を聞いてきました。どうしてもやはり体のトラブルの相談だったり、それをケアする場所、そして子育てに直面しております。

そこで、ビジョンとして、子育て中の母親たちの体と心の健康をサポートできる場所をつくり、孤育てをなくし、もう一人産み育てたいと思える地域をつくりたい。

スライドが前後します。

そこで、応援してくれている地域のアドバイザーが、産婦人科の先生を初め、看護師、助産師、作業療法士、理学療法士、藤沢市の縁側事業のコーディネーター、青少年相談員、青少年指導員の皆さんと一緒にこの事業を応援してくれています。

スライドが前後します。

事業の内容です。

体の専門家である理学療法士にまず相談できる場を、このヨガのクラスの中で行っていきます。最初にクラスの中で、最近の体の気になることなどをヒアリングし、ヨガが終わった後に自然と相談できるような場をつくっております。この活動を始めたときがちょうどコロナであったので、コロナ禍のときにはオンラインに切りかえてこの活動を行っていました。

こちらの写真は、妊娠中から腰痛があるお母さんで、妊娠中から腰痛があるお母さんたちは、産後も腰痛が6割から7割残ると言われています。そんなお母さんたちに、少しでも腰痛を和らげるようなセルフエクササイズの方法であったり、赤ちゃんのお世話がもう本当に産んでからすぐ始まるので、なるべく腰に負担のかけない授乳姿勢や抱っこ、抱き上げ方などの方法もお伝えしております。

母親同士のコミュニティ・居場所づくりも行っております。クラスの初めに、お母さん同士が自然と会話ができるようなコミュニケーションづくりのワークや自己紹介も含めて行っていますが、実際にやってみると、お母さんたちは自然と会話が出てきます。そして、「久々に大人としゃべりました」と皆さんそろって言われます。「家族以外の大人とお話しすることはすごく大事ですね」と、参加してくださったお母さんたちは言

ってくださいます。

産後の体と回復のサポートを、ヨガを通して行っています。ここでなぜ産後にヨガなのかといいますと、女性の体の中のホルモンの分泌が一番減るのは産後と言われております。ご想像していただきますと、産後にホルモンがガクンと落ちるので、どうしても精神的にもすごく不安定となり、産後うつにも関係していきます。そうなったところで、ヨガはゆっくりと呼吸をしながら背骨を動かしていくことで、自律神経も調整できるので、産後にヨガがとてもお勧めです。

そして、下半身の筋力であったり、腰やおなかの筋肉も産後に本当に落ちます。そうなったときに、ヨガのポーズを取り入れながら、弱くなった筋肉たちを回復させていくためにも、産後にヨガを行っております。こういうことがないと自分の時間がなかなか持てないので、「久しぶりに体を動かしました」、「すっきりしました」と言っていただけです。

事業スケジュールです。ご質問にもありました講師謝金のことですが、こちらの記載がわかりづらくて誤解を与えてしまったようで申しわけございません。1回2万5000円ではなく、ヨガのクラスとコミュニケーションの時間……。 (ベル音)

すみません、途中になりましたが、ありがとうございました。

(坂井部会長) 発表、お疲れさまでした。

それでは、発表が終わりましたので、これから質疑に入ります。委員の方からご質問がありましたらお願いします。

では、今、説明が途中になってしまったので、その部分を簡単に説明していただけますか。

(特定非営利活動法人ぐるんとびー) ありがとうございます。講師謝金につきまして、資料のほうでは1回2万5000円と見えてしまっているのですが、お母さんたちのヨガ、そしてコミュニティの時間を含めて、大体2時間。準備を含めると、3時間ぐらいの時間の中で、毎週1回、月に4週と5週あるときがあると思うので、それで計算しますと、講師謝金の1回の相場が5000円から6000円となっております。わかりにくくて申しわけなかったです。

(坂井部会長) それでは、質問のある方はお願いします。

(山岡委員) 基本的には産前産後に特化したプログラムというふうに理解しています。産

後というのが大体どれぐらいまでの期間なのかちょっとわからないんですが、産後の期間がある程度終わると、ここを離れていく、すなわちヨガの教室には来なくなると思うのですが、その後はどんなかかわりがあるのか。

とりあえず産後の時期は過ぎてもその後もまだ子育ては大変な状況が続くと思うので、その後もこのコミュニティにかかわれるような仕組みとか仕掛けがあるかどうか。できればそのかかわり方は、今度は新たな妊娠中のお母様を支える側に回れるような仕組みとか、そういうのがあるといいなと思ったんですが、そのことについて、お考えを教えてくださいませんか。

(特定非営利活動法人ぐるんとびー) 産褥期が明けるのがちょうど産後2カ月になりますので、ご参加していただける方は、産婦人科の先生の1カ月健診の受診が終わって、体調が大丈夫でヨガをやっていいですよという許可を得てから、産後2カ月以降を対象にしております。

今まで参加してくださったお母様たちで、大体参加されるのが、3歳ぐらいまでが多いです。3歳以降のかかわりに関しましては、来年度は産前産後ケア事業という名前で今回発表させていただいているのですけれども、産後は産前からの体づくりがとても大事ですので、産後のその後もお母さんたち同士のコミュニティの構築というのが、正直、今はまだ考えられてはないんですけれども、産前からの産後がつかくならないような仕組みづくりを考える。

例えば妊娠中に母親向けの講座があったりすると思うんですが、そこで赤ちゃんのこととか、妊娠・出産はこういう流れがあるということはあるんですけれども、お母さんたちの体を守ることであったり、安産に向けての体づくりというところが少なく感じているので、妊娠前のほうに少しアプローチしていけたらなと思っております。

(関野委員) ご自身の体験も踏まえて、事業の必要性が非常によく伝わってきたプレゼンでした。

事前の資料で気になった点がございまして、予算の中で「4人×30回」というふうに記入されているんですけれども、これは特定の4人の方を30回なのか、1回の参加希望が4人で、その合計が30回なのかというところはいかがでしょうか。

(特定非営利活動法人ぐるんとびー) 特定の方もリピートで受けてくださる方もいると思うんですけれども、特定の方というよりは、毎回変わるというようなイメージです。

(関野委員) それでは、全体的に人数規模としてはどのくらいを見込んでいるということになりますか。

(特定非営利活動法人ぐるんとびー) 年間の人数ですか。

(関野委員) 延べではなくて、合計参加者がどのくらいの規模か。

(特定非営利活動法人ぐるんとびー) 1回の開催でということですか。

(関野委員) 合計です。

(特定非営利活動法人ぐるんとびー) 年間ですか。

(関野委員) 特定の4人でなければ、大体どのくらいの参加者の規模を見込んでいるのかということになります。

(特定非営利活動法人ぐるんとびー) 月に8名ほど、週に1回です。月によって4週と5週があると思うのですが、そこで月に8名のお母様たちが参加されて、12カ月ということなので、約100名前後と見込んでおります。

(細沼委員) 意見のほうにも書かせていただいたんですけども、今回ぐるんとびーという名で申請されておりますが、ぐるんとびーさんは別の法人もあるかと思えます。先ほどの地域アドバイザーの中にも兼務というか重複している方がいらっしゃるんですけども、今回ここに申請するに当たり、なぜぐるんとびーという名前をお使いになっているのかというのが1つの疑問です。

それから、参加費が少し高いのではないかなというのがあります。それも意見に書かせていただきましたけれども、その点をお答えいただければと思います。

(特定非営利活動法人ぐるんとびー) 参加費に関しましては、お母様たちはお子さん連れで参加していただいて、今の段階では1500円で設定させていただいています。

そして、別法人の株式会社ぐるんとびーがあるのですが、私が今行っていきたい産前産後の事業というのは、本当に藤沢市のお母さんたちに足を運んでもらいたいと思っております。

そして、特定非営利活動法人のほうは、一人一人地域の課題に対して自分たちができることを行っていきたいと思っております。株式会社ぐるんとびーは、ちょっとわかりづらと思うんですけども、株式会社とNPOのほうでは、やっている活動がまた違うので、今回は私たちが一市民として必要だと思って、活動を行ってきたいと思っております。ご質問の答えになっていますか。

(細沼委員) いただいた前回の資料にチラシのカラーコピー代というのがあって、チラシを200部ということですが、周知はどのようにされるのか。200部で果たして足りるのか。どのようにされていく予定でしょうか。

(特定非営利活動法人ぐるんとびー) 周知に関しましては、チラシと、あとはフェイスブック、インスタグラムを、特定非営利活動法人ぐるんとびーのほうで現在作成しております。チラシだけではお母さんたちのところに届きづらいですし、最近のお母さんたちはインスタグラムとかよく見られているので、チラシ以外にもお母さんたちに届けられるようにしていきたいと考えております。

(細沼委員) あともう一点は、いただいた資料の中に商店街の一面を使ってというふうにあったんですが、先ほどプレゼンにありましたけれども、ほかにも公民館とかを使う。拠点は商店街の中の居場所というところですか。

(特定非営利活動法人ぐるんとびー) 一番最初の活動のスタートは大庭公民館だったんですが、コロナ禍と重なってしまったので、今は滝の沢の商店街のほうを借りて行っております。事業のほうが安定してきましたら、藤沢市の大庭以外にも広げていけるようにしていきたいと考えております。

(坂井部会長) 以上で質疑を終わります。お疲れさまでした。ありがとうございました。
スタート支援コースのプレゼンテーションは以上で終了になります。

(団体入れ替え)

<ステップアップ支援コース>

①NPO法人とことこ

(坂井部会長) これからはステップアップ支援コースのプレゼンテーションになります。

NPO 法人 とことこさん、「『Wa project』 ～ツナグ～」について、発表をお願いします。

(NPO 法人とことこ) 本日、7月2日は、実は私たちにとって特別な日なんです。NPO 法人とことこは祝1周年ということで、無事に1年を迎えることができました。まだ1歳、鶴沼を中心にとことこ歩き始めたばかりの団体です。

昨年度はスタートアップ支援コースのご支援をいただきましてありがとうございました。支援金を広報に使わせていただきまして、成果物のリーフレットをつくることができました。これと、あとチラシなどを自宅の前とか各地点に置いたり貼ったりしていた

ところ、そちらを見てお声がけいただいた小田急電鉄さんが、きょうの午前中は七夕おはなし会をタコ公園、橘公園でやったんですけれども、小田急電鉄さんとのコラボということで遊びにいらっしやっていただきまして、お土産に駅長バッジみたいなものをくれたり、子どもも大人もとても喜んでくださいました。

きょうは七夕まつりということで、笹飾りなども大人も子どももたくさん書いていただきまして、地域を盛り上げることもやっております。

このリーフレットですが、私たちは「こそだて支援」と「地域交流」の2本の柱にこだわって行っています。特にことしは異常気象も心配です。災害時なども、いざというときも安心して過ごせるようにということで、日ごろからのつながりづくりを意識して活動しています。

このリーフレットの効果もありまして、先ほどお話ししたように、コラボイベントなどのお声がけもふえました。改めましてミライカナエル活動サポート事業の皆様にご心より御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

リーフレットの裏面です。ご質問の中に、事業継続のために活動資金などのご心配をいただくお声がありました。ミライカナエル活動サポート事業とは別で、いろいろとワークショップ、有料のイベントなども開催しております。私たちの団体は営利目的ではありませんが、地域貢献をしながら事業継続のために必要な活動資金もつくっているところです。

とことこの目指す未来は藤沢市と同じ。災害にも強い、暮らす人も訪れる人も安心して過ごせるまちを目指しています。

ところが、エントリーシートにも書いたように、課題もまだまだあります。市役所防災安全部の方とも連携をとってお約束しているんですけれども、防災イベントなども今後企画していく予定です。

地域の交流、地域の情報をということで、SNS を活用しています。フェイスブックグループ「鶴沼を愛する会 Wa project」というのを昨年立ち上げました。きょう調べたら、861名までグループがふえていました。こちらのグループで、鶴沼のトピックスとか情報交換をしております。このグループの声かけで、ビーチクリーンにたくさん人が集まってくれたり、最近ですと、猛毒のカツオノエボシが鶴沼海岸のあたりにもたくさん上がっているということで、こんな注意喚起もしました。SNS だったり、きょうの

おはなし会などでも、こういった注意の声かけなどもしています。

あおぞらおはなしかいの様子です。七夕のおはなし会をやったと先ほどお話ししましたけれども、こちらは「こどもの日」の様子です。地域で活躍する方をゲストさんで呼んだりしています。みんないい笑顔をたくさん見せてくださっています。

きょうも顔見知りの方たちもだんだんふえて、自主的にお手伝いをしてくださったりして、笑顔の輪がどんどん広がっています。きょうの笹飾りですけれども、近くの天理教さんから竹笹をいただきました。本当にたくさん書いていただいて、楽しかったです。

出張おはなしかいです。サミットテラスモール湘南店で行った会場の様子と、あと、もみじ幼稚園のお祭りの様子です。それぞれこちらでも防災についての案内をしています。クイズや、それから停電に備えたポータブルのソーラーの充電器がありますよというご紹介もして、日ごろから皆さんに防災意識を高めてもらうきっかけをつくっております。

とことこ café です。市民の家を使った集いの場です。月に2回行っています。

右上の写真ですが、ママさんが腱鞘炎だということで、ちょうどお客様でいらしたシニアの方に抱っこしてもらって、ママさんも息抜きができて、すごく喜んでいらっしゃいました。先ほどぐるんとびーさんのお話や、すまいるらぼさんのお話がありましたけれども、それぞれが孤独ではなくてつながれる場所が本当に必要だと思います。

左下の写真ですが、アロマのハンドマッサージですとか、歯科衛生士さんによるエプロンシアターなどは、以前のイベントの参加の方が、みずからボランティアをお申し出くださって、遊びにいらっしゃってくださいました。

中央の写真ですが、鶴沼中学校卒業生で、ロシアでプロのバレエダンサーをやっている小笠原君といます。私と昔からずっとつながっていて、ここに遊びに来てくれて、よそのお子さんを見て「かわいい、かわいい」と言ってかわいがってくれました。

その下の写真は、参加者の子どもさんで、それぞれ異年齢でのつながりです。

右下の写真は、中学校のときの同級生で、子ども同士もたまたま同級生だということで、こちらで落ち合ってくださいました。

とことこは、市民を活躍の場につなぐ活動もしています。

変わったところでは、お庭の恵みで、食べ切れないものを循環する仕組みのお手伝いもしております。

私たちはこととして設立1周年です。まだまだできることは限りがありますが、町内会とも連携をとりながら、防災、防犯、認知症、うつなど、予防を意識するきっかけもどんどんつくっていく予定です。

皆様、ご清聴ありがとうございました。

(坂井部会長) 発表が終わりましたので、委員の皆さん、ご質問はありますでしょうか。

(大場委員) 活動の様子がとても楽しそうで、そして皆様も喜んでいただける様子がとても印象的でした。

今回こちらからの助成金が50万円、受益者負担が5万円でトータル55万円ということですが、昨年、事業収益とか、寄附とか、そういったものもせつかく予算の中に入っていたのに、今回それを全く入れなかったのには何か理由がありますか。

(NPO法人とことこ) この55万円というのは、確実な数字しか載せていません。会員がこれからどれくらいふえるのか、寄附がどれくらいいただけるのか、これはこれからの私たちの活動にかかってくるかなと思います。

昨年度も、後ろのほうに活動計画報告書を載せさせていただいていますが、はっきり申し上げて、ここまでお金をいただけるとは思わなかったんです。何しろ認知度も何も無いゼロから始めた団体ですから。ですので、この数字にどれだけ上乗せできるかが、今年度の私たちの活動、また去年1年間の活動の結果にかかってくるかなと思っていますので、あえて載せませんでした。

(山岡委員) 今の質問に関連することですが、今のお考えはよくわかったんですけど、そうではなくて、むしろこういう活動をこれからやっていくから、今年度は何人ぐらい会員を集めようとか、何か所ぐらい寄附をいただけるようにしようという目標を入れて載せていただくほうがいいと思います。そうすることでそれに合わせた事業になると思うのです。やってみて、何人集まるかわからないだと、言葉は悪いかもしれませんが、結局行き当たりばったりの活動になるおそれがあるような気がするのです。

これだけちゃんとミライカナエル活動サポート事業の助成を受けて法人化もしてということであれば、寄附や会員、会費も計画に入れていただくことがふさわしいかなと思います。参考までに。

(NPO法人とことこ) 確かにそうです。ありがとうございます。

(山岡委員) それと、経費の話になって申しわけないんですが、資料には「3年目」のと

ころに企業からの助成金をいただくということが書いてあるんですが、その見通しがあるかどうか。例えば今の時点で、こういう企業さんから協賛の申し出があるとか、そういうことがあれば教えていただきたいと思います。

私の感触としては、とことこさんの活動は本当に地道にやっておられて、すごく輪が広がっていると思うんですけども、何となく企業が助成するという性質かどうなのかなというのが少し気になっています。むしろ地域の人たちが、本当にこういう活動があったらいいなと言って支えていくような活動のような気がしているので、あえて企業ということにこだわっておられるのであれば、そこを教えていただければと思います。

(NPO法人とことこ) おかげさまでサミットテラスモール湘南店さん、小田急電鉄さん、メルシャン藤沢工場さんなど、地元の皆さんに愛されている企業さんにつながる事ができました。自主事業の有料イベントなどで活動資金をつくる努力ももちろんしていくのですが、3年目のところでは少し大きく、本当に雑に書いてしまって申しわけなかったんですけども、胸を張って企業さんから助成金を受け取れるような、皆様から必要とされる団体になっていきたいという思いを込めてあのような書き方をしております。

ここが絶対に支援してくれるとか、そういう見込みがあるわけではないんですけども、ミライカナエル活動サポート事業の協働コースにも応募して、ミライカナエル活動サポート事業の皆様、市役所の皆様、地元の企業、商店街さん、いろいろなところつながって活動して、必要とされる団体でありたいなという思いで、そのように書かせていただきました。

(山岡委員) そうであれば、ことし、来年ぐらいでその見通しをぜひ皆さんで探っていただいて、「よし、いけるぞ」となれば、例えば先ほどの話のように、「じゃ、ことし、まず1社、少額でもいいから助成を獲得しよう」というようにやっていただけると、3年目の計画が実現していくと思います。

(樋口委員) 去年からことし1年やってみて、防災や防犯のことがすごくクローズアップしてきているということで、具体的に例えば8月の夏休み親子企画の防災・防犯講習会はどのようなものなのか、教えてください。

(NPO法人とことこ) まだ公にはしてないんですけども、実際、今後、防災の方と打ち合わせをして、形にしていく予定になっております。夏休み企画としてというぐらい

です。

(NPO法人とことこ) まだちょっと具体的ではないです。

あと、先ほどご案内しなかったのですが、一橋学院の生徒さんに今依頼をしていることが1つあります。防災についてのクイズとか、子どもたちにわかりやすく伝えるツールを考えてもらうということで宿題を出して、そちらも考えていただいておりますので、それもイベントなどでちょこちょこ発表しながら、地域とつながっていければと思っています。

(豊福委員) 2年目に入られたということで、1年目の状況等も先ほど伺っておりました。大変多様で多面的で、また時間がかかること、いろいろ場所も含めて、人のつながりも含めて、すごく広がっていかれているなというのを感じました。先ことは先のこと、また今からやっていくことかと思いますが、今までのことと、また今後も含めて運営していく中で、工夫しているようなことがあったら教えていただければと思っています。

(NPO法人とことこ) 皆様から本当にアドバイスをいただいておりますし、長く続けていくために、本当に無理はしないようにということで、メンバーも10人いるのですけれども、それぞれ家庭があって、仕事があってということなので、できることを、できる人が、できる時にということなんです。あと、メンバー以外でとことこに遊びに来てくれてイベントに参加してくれた方たちが自主的にボランティアしてくださったり、そういうありがたいつながりで今があります。また皆様にアドバイスをいただく機会がたくさんあると思いますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、以上で終了となります。NPO 法人とことこさん、お疲れさまでした。

(団体入れ替え)

②湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会

(坂井部会長) 続いて、湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会さん、「平和交流プログラム（招聘）」について、発表をお願いします。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) 湘南とアジアの和賀井です。よろしくお願いいたします。

湘南とアジアの若い子たちを中心とした交流活動を進めております。ここでは平和のことにに関して行動している部分のご紹介とご説明させていただきたいと思います。

皆さんの中でご存じの方も多いと思うのですが、核兵器の使用を受けた国としては日本が唯一ですけれども、核兵器の廃絶を訴えている都市が集まっている組織が2つあります。

1つは世界組織で、平和首長会議というものです。世界の8161自治体で構成されておりますが、日本の自治体はほぼ100%加入しています。

もう一つは日本の組織ですが、日本非核宣言自治体協議会、略称は非核協と呼ばれますけれども、346自治体で構成されています。日本全体1724自治体の20%の加入ですから、ある意味、一部の集まりであると考えていいと思うのですが、藤沢市は、実は非核協の初代会長自治体です。現在も5自治体から成る副会長自治体の1つであります。

何が言いたいかというと、藤沢市は、日本の中でも核兵器の廃絶について強い意志を持っている都市であるということです。少なくとも政策上はそうだと思います。

我々のグループでやっていた広島への夏休みのツアーですけれども、このツアーは10年ぐらいずっと続きましたが、5年ぐらい前に取りやめになりました。旅行業法ができて、こうやってたくさんの人を集めて旅行に連れていくことはいけないということになりましたので、これは5年ぐらい前の写真です。

これは今の話とは少し違うんですが、我々が交流している大学生が日本に来て、藤沢で交流しているときの写真です。これは藤ヶ岡中学校です。

これはディズニーランドに行ったときの写真です。

これは長後中学校です。楽器を持って演奏しています。

今、平和の話をしましたが、私たちは平和というのは、ただ単純に人の殺し合いとか、そういうのがないということだけではなくて、異文化の人たちが、それぞれに互いに理解し合うということがまず基本だろう。

そこをベースとしてつくっていくことではないかということで、文化交流というものも平和のつながりの一つのものとして強く意識しています。これは民族舞踊です。これは部活動で出ています。

地域の人たちが開いてくれたお別れ会です。

この写真しかないのですが、これは羽鳥中学校でインドネシアの青年が平和集会を開いたときの写真です。学生3人と先生1人の4人ですが、広島で4日間フィールドワークをしまして、そこで考えたことをまとめて、印刷したものをつくり、それを配り、生

徒と意見交換したものです。思ったよりいい集会になりました。ワーッと拍手が沸いたとかいうことではないんですけども、一言一言、言葉をかみしめて言うインドネシアの人の日本語にしっかりと耳を傾けてくれているなという感じがしています。

その学生がインドネシアに戻ってからですが、広島に被爆者がバンドン市にある国立の大学1つと私立大学1つの計2つの大学で被爆講演をしました。

この学生が広島に来て、羽鳥中学校で話したときの学生代表のアグネスさんです。全学年に向けて発表しています。

これは大学での受講の様子です。学生がたくさん集まってくれたのがわかると思います。

少し話は違うのですが、これは明治中学校の卒業生が現地に行って、現地の日本語学科の学生に被爆の事実を話しているときの写真です。この子は藤沢市の長崎派遣で長崎に行き、我々のプログラムで広島に行って両方の話をしてくれました。

そのつながりの中からですが、ジャカルタのスラムの子たちに文房具を送ろうということで、生徒会が余っている文房具を全国から集めて、それを送るポシエットをつくらうということで、家庭科部の子たちがつくってくれた写真です。

それを高校生たちが運んで、現地の NGO の事務所に届けています。

現地のスラムの子どもたちが品物を受け取っている写真です。

現地の NGO とか、ストリートチルドレンとか、日本の若者とか、ごちゃごちゃになってお話をしているときの写真です。

平和交流プログラムの日程を提示させていただいております。

9月16日から19日、日本人10人、インドネシア人10人の20名で構成されますが、以下のようなところを見ます。20日から23日はインドネシアと藤沢の中学校で平和交流をするための資料づくりで、日本語とインドネシア語の2カ国の言葉でつくります。それがその作業です。26日からの作業が、3つの中学校での交流会という形になっています。

裏番組で、予算とか全く別ですけども、2月に日本の若者8人ぐらいがインドネシアの大学に行って、インドネシアの大学で被爆の事実を話すというプログラムを立てています。被爆者が話すのではなくて、日本の学生が話すという形で活動を進めています。

とりあえず以上です。

(坂井部会長) それでは、発表が終わりましたので、これより質疑に入ります。質問のある委員の方はお願いします。

では、私から伺います。こうした活動というのは、全国的にはほかでも行われているものなんでしょうか。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) 情報はないんですけども、はっきり言って、あまり聞いたことがないです。僕らは、平和とか、市民活動とか、みんなごちゃごちゃになっているのです。ごちゃごちゃという言い方はよくないかもしれないけれども、ある部分では、お金をいただくときには、いろいろな団体からもお金をいただけるような要素ではあったりします。

藤沢の子たちの交流集会とか、藤沢の子たちのための資料づくりとか、その部分は藤沢市にお願いしてもいいかなというふうに僕は思っているんです。

(坂井部会長) 同じような目的の団体が日本に何カ所かあって、そこで情報交換したり、交流しながら、いろいろやっているよということではなく、独自にやっつけらっしゃる。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) 本を読んだり、知り合いがいて情報交換とかはしていますけれども、何か組織立ったものに入っているということはないです。

(坂井部会長) 基本的に独自に企画し、活動しているということですかね。

もう一つ、質問にも書かせていただいたのですが、インドネシアの学生さんたちとずっとやっつけらっしゃいますよね。そこに特化されている理由はということなんでしょうか。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) 特段の理由はないんですけども、僕がまだ 30 歳ぐらいのときに、神奈川県が青年指導者海外派遣事業というのをやっていたのです。神奈川県の 30 歳ぐらいの者を、東南アジアの幾つかの国に派遣して、いろいろ学ばせていこうというのがありまして、私がたまたま応募した年がインドネシアだったということです。そして、インドネシアで友人ができたということですね。最初がインドネシアでなかったら、ほかの国だったかもしれない。

(坂井部会長) そういうインドネシアとのつながりのご縁があったので、そこでずっと継続しているということですか。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) ある意味では、公的な派遣団のき

っかけで、こういうことができるようになったということだと思っています。

(坂井部会長) 将来的にはほかの国の学生、留学生とも少し幅を広げていきたいということはあるのでしょうか。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) 私たちが幅を広げるのではなくて、もう少し簡単に言うと、我々は1つの大学とのつながりなんですけど、ちょっと知り合いの大学があって、ちょっと知り合いの大学で私たちと同じようにやってもいいよという集まりがあったら、そっちはお願いねという形でふやしていくかもしれないですけども、我々がワーツと膨張しようということは無理かなと思っています。

(細沼委員) ここに藤沢市内3つの中学校というふうに記されていますが、中学校3つというのはもう決められているんですか。教育委員会との打ち合わせとかされたのか。また、授業で行うのか。公募みたいなもので募るのか、教えてください。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) 指導課長さんと国際協力担当の方が2名いらっしゃるんで、3名の方とは、写真の入った資料をもって、こういうものが動きます。学校長さんとかから問い合わせがあったときには、こういうものです、ご承知くださいということによってあります。以前、文化交流のほうでは、ずっとやっているんで、こういうふうに学校に外国の子が来て交流するということは、ある程度わかっておられます。

学校さんについてはこれからご案内をしていきますが、大体この学校とこの学校はやってくれそうだなという学校はある程度わかっています。もちろん新しくやりたいという学校があれば、そちらを優先したいとは思っております。

(細沼委員) コロナ禍で、学校のほうも、カリキュラムが特に密になっていたり、あと、緊急事態宣言、まん延防止などで、中学校も高校もそうですけれども、修学旅行とか、いろいろなものが、今までの予定どおりにはかなり進んでいないと思うのです。3校というふうに指定してありますけれども、その辺のところをきちんとされたほうがいいのではないかなというふうには思っています。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) 学年集会が開けない状況とか、何メートル以上離れるようにという指示が出されていることは把握していますので、ある程度は対応できると思っています。

(山岡委員) インドネシアとの交流というのは、何年かずっと続けておられると思うんで

すけれども、そこにかかわった生徒さんが、今この活動にどんなふうにかかわっているのか、あるいは、経費の話になるんですが、そういう方から、何か資金的な寄附とか援助があるのか。それは日本側だけではなくて、インドネシア側においても、ここにかかわった生徒さんが、その後もこの活動にかかわっているかどうか状況がわかれば教えてください。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) 簡単に言うと、一番かかわっているのは、我々の実行委員会に、かつて行った大学生とか中学生が残っているということがあります。

それから、かつて行った子たちが、今は広島派遣がなくなってしまったのですけれども、そのときに一緒に小学生が行くので、「面倒を見に来てくれないか」と言うと、来てくれたりした。〇〇委員とかいってきちっと決まっていなくて、ごちゃっという、回っているような状況ではあります。その中にはインドネシアのメンバーも入っています。

日本に来て、働いている子は何人かいますので、その子たちは、みんなが藤沢の住民ではないんですけれども、近隣にいるので、その子たちが一緒に行動してくれたりしています。

(山岡委員) 現地のインドネシアのほうでは特にはないですか。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) 行くと、かつて日本に来てくれていた子らが集まって懇親会みたいなのはやりますけれども、そこで何かが動いているということはないです。

今度、中学生が日本の絵本を向こうに送って、日本語学科の学生がそれをインドネシア語に直して、それをインドネシアの貧しい子たちの家に送る活動を、両国の中学生と大学生のつながりでやっていこうということが少し動き始めました。

(山岡委員) 今後の継続性ということを考えると、この活動にかかわって支援を受けた人たちが、今後中心になってこの活動を運営していくことがあるといいかなと思いました。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) そういうふうに目指していきたいと思います。

(新實委員) 私も、今おっしゃったように、卒業生と言うとおかしいですけれども、参加された学生たちが、今はネットで簡単につながれるので、そのつながるきっかけを事務局がつくって、今まで参加された方たちの層の厚さをつくられたほうがいいのではない

かという気がいたします。せつかくの人材を、もったいないですよ。

あと1点は、私はすごくすばらしいなと思うのは、インドネシア語と日本語での資料をちゃんと作成されているということです。それはやはりほかの一般の方たちも見て理解できるようにしていただきたいなという感じがします。

インドネシアの人向けにインドネシア語に翻訳したものの中身は日本語のものと同じですか。全く違うんですか。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) 中身は同じです。

(新賞委員) できたら、同じものであっても、インドネシア語と日本語が両併記されているものを出していただいたほうが、何となく文化交流として言語に対する興味のきっかけになる。いろんな意味での文化交流ができるのではないかなという気がしたので、併記のほうもあればうれしいなと思いました。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) ということですか。日本の中学生だけではなくて知りたい人のためのもの。

(新賞委員) そうです。もちろんこれから未来をつくる若い世代に種をまくという意味も大事ですけども、市の助成金をいただくということは、やはり市民ということで、子どもを育てている親世代、孫世代の支援ができて大人にも届くような形にさせていただけるとうれしいなと思いました。

(湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会) そういうときに、「こういうものをつくったのですが、無料で配布します」みたいなことは、広報とかに載せていただけるんですかね。

(坂井部会長) それはここで別に「できますよ」とか、「できません」とかいう話でもないので、事業を進める中でご相談いただく部分なのかなというふうに思います。

それでは、時間になりましたので、質疑は以上といたします。湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会さん、ありがとうございました。

(坂井部会長) それでは、ここで休憩とします。

休憩に入る前に、事務局から事務連絡をお願いします。

(事務局) これから休憩に入ります。再開はこの会場の時計で午後2時30分といたします。それまでにお席にお戻りください。よろしくお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後2時22分 休憩

午後2時31分 再開

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

③NPO法人紙芝居 Project

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、プレゼンテーションを再開します。

NPO 法人紙芝居 Project さん、「紙芝居で育む子どもたちの未来と郷土愛」について、発表をお願いします。

(NPO 法人紙芝居 Project) それでは、よろしく願いいたします。「紙芝居で育む子どもたちの未来と郷土愛」。見える方は見ていただければと思います。

初めまして、NPO 法人紙芝居 Project 代表の島田です。

これから提案したい事業「紙芝居で育む子どもたちの未来と郷土愛」についてお話しさせていただきたいと思います。

まず、私たちの団体は、紙芝居イベントの開催、紙芝居読み手の育成、紙芝居制作を行っている団体となっております。

昨年度、ミライカナエル活動サポート事業スタート支援コースを採択していただき、コロナ禍ではありましたが、10 施設、547 名のお子様と職員の皆様に藤沢の民話、紙芝居『江島縁起』を見て楽しんでいただきました。

この訪問紙芝居事業については、今年度も継続事業としてやっております、現在、既に6施設の訪問予定が決まっております。

しかし、藤沢市内には、まだ訪問していない保育園、幼稚園等の教育施設が182施設ございます。この全てを訪問するには、それなりの人数の紙芝居の読み手が必要となります。しかし、藤沢市内でプロとして活動されている方はほとんどおりません。実際ゴリラ先生ただ一人といった形になっておりますし、ボランティアで活動されている方たちも、そう多くはございません。

そうなんです。私たちの団体活動の課題が浮き彫りになりました。それが「読み手不

足」であります。

昨年度、公演希望を保育園さんに募ったところ、ほとんどの保育園さんが「ぜひ来てほしい」という形でお声がけをいただきました。藤沢市内の子どもたちが紙芝居公演を心待ちにしております。ですので、読み手を育成することでこの課題を解決し、子どもたちに紙芝居公演を届けたいと考えております。

今の形の紙芝居なんですけど、1930年、世界大恐慌による日本の大不況によって、多くの失業者が、生活のために、お金がかからず、簡単にできる商売、街頭紙芝居に飛びつき、瞬く間に流行したのが始まりでございます。

紙芝居と言うように、これそのものは演劇舞台、芝居でございます。そうなのですが、実際、芝居は絵（文字）がやってくれますので、演者は裏に書いてある台本を読めばよく、コツがわかれば誰でもできるわけです。

重要なのは、このお話の内容です。おもしろくないものは、子どもたちもすぐに飽きてしまい、聞いてくれません。なので、子どもたちが集中して聞けるしっかりとした内容が必要になってまいります。

逆によい話であれば、練習次第でいつでも誰でも、シニア世代のセカンドキャリアとしても活用することができるぐらい、誰でもできるコンテンツになっていますので、紙芝居というものはすごく有効だと思っております。

そして、昨年度、訪問紙芝居公演で、訪問先にアンケートをとらせていただいた際に、実は『江島縁起』のほかに、藤沢クイズの紙芝居をやったのですね。これがとても楽しかった、勉強になったとの感想がございました。なので、本日は皆さんにクイズを少し一緒に楽しんでいただければと思います。

藤沢クイズです。この絵に見えます江の島ですが、江の島の名前の由来は次のうちどれか。1番、ひしゃくの柄の形から江の島。2番、絵になるなから江の島。さあ、どちらでしょう。

1番だと思う方。——2番だと思う方。——ありがとうございます。そのお手が大事なんです。

さて、正解は？ ダダダダダ、ダーン。ひしゃくの柄から成る江の島。このような紙芝居のクイズをやって、子どもたちの心をグッとつかみました。

アンケートでも、このような藤沢を知ることのできるお話をつくってほしいというお

声がありましたので、このクイズの紙芝居をつくり、導入していくことによって、紙芝居公演、素人の方がやっても、子どもたちの心をグッとつかんで、次の話にスーッと入っていける、そういったコンテンツなので、すごく有効だと考えております。

ですので、今回提案させていただき読み手を育成する講座では、この実践を上手に行うために、藤沢にまつわる歴史、地名、雑学などのクイズ紙芝居を制作し、教材とすることによって、子どもたちも、演者になるシニアの方たちにも、藤沢市に対する思いが深まると想定されております。

今年度この事業は、1期8名、2期で16名の受講者を予定しております。受講修了後は、当団体が訪問を予定している保育園等の施設で訪問公演をしていただけるように検討しております。

そうすることで、昨年度は、年間で10施設に訪問することができたのが、26施設以上に訪問することが可能になり、年間500名ぐらいの子どもたちから、年間1,000名以上の子どもたちに楽しんでいただけるように、実績を上げることが可能となっております。

そして、毎年この講座を継続して公演することによって、受講生を輩出して、さらに訪問施設数をふやしていくことが可能と考えております。

この事業を通しまして、子どもたちには豊かな文化体験から育まれる心と郷土愛、シニア世代の方たちには、生きがい、セカンドキャリアの創出、そして市内全体に紙芝居があふれる社会になることによって、紙芝居文化の発展・持続と地域社会の活性化に貢献できると考え、この事業を提案させていただきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

(坂井部会長) 発表が終わりましたので、質疑に移ります。質問のある委員の方はお願いします。

(関野委員) 大変楽しくプレゼンを聞かせていただきました。

コース切りかえになりますけれども、昨年度からの継続ですね。そういうことで昨年度の申請も少し見させていただきまして、音楽という要素があったのですが、ことし削られているのがちょっと気になりました。

もしかしたら、読み手さんの育成に集中するのかなというところでもありますけれども、昨年度の音楽に関するところの感触みたいなものがあれば聞かせていただきたいと思います。

ということと、音楽を削った理由が読み手さんの育成なのかなとも思いますけれども、ほかであればというところで伺わせていただければと思います。

(NPO 法人紙芝居 Project) 昨年度、音楽というものを組みせていただいたのも、子どもたちの文化体験機会という中で、音楽も足りていないということが1つ要素にございました。

実際にやってみましたところ、やはり音楽と紙芝居を合わせるというのは非常に難しかったのです。プロであるゴリラ先生だからこそできた事業でございました。今回はボランティアさんを育成する講座になります。なので、この事業に関しましては、音楽のほうは省かせていただいております。

(山岡委員) 人材を育てていって、活動を普及させていこうという考え方が持続可能だなと感じて、聞いて、資料を拝見させていただいております。

今回16名の受講者を見込んでいるということですが、めどはいかがでしょうか。「私、やりたい」と言っている方がもう既に周りに結構おられるかとか、その辺を教えてくださいたいと思います。

(NPO 法人紙芝居 Project) 大変申しわけございません。当てについては現在ないです。

ただ、紙芝居のボランティアをやりたいわというお声は、昨年度、段ボール紙芝居を販売させていただくという提案の中で、タウンニュースという記事に、段ボール紙芝居を販売しましたよというふうに載せさせていただいたら、15~16名の個人の方からお問い合わせがあったのです。なので、個人的に活動されている方はいらっしゃるんだなど。

そこで今回、この事業計画の中で、タウンニュースに載せるというのを計上させていただいていたと思います。なので、広く皆様に発信することによって、1期8名、年間16名が集まるのではないかと見込んでおります。

(山岡委員) これが通れば制作費に使えますので。でも、人が集まらなかったとなると、できないので、そこはぜひしっかりやっていただければと思います。

(新實委員) 意表を突くプレゼンで、私もとても楽しませていただきました。紙芝居というのは、小さな子たちにとっては身近に触れる体験になるし、しかも、それが藤沢市ゆかり、自分の身の回りに近いものを知ることができるというのは、いい勉強にもなると思います。

ただ、『江島縁起』の紙芝居とかクイズだけではなくて、将来的には遊行寺とか、市内にはいろいろ知ってもらいたいなという文化継承してほしいものがたくさんあるんですが、それに対する予算の確保とかは考えておられるのでしょうか。

(NPO 法人紙芝居 Project) 先日、私は「地名の不思議」というものを手に入れました。藤沢市の郷土歴史家の方とか、藤沢地名の会の方とか、いろいろな方たちが、いろいろな活動をされています。そういった方たちに、これから時間をかけて、広く聞き取りをしていって、そういった郷土の歴史文化等を紙芝居にしていく。そのための予算につきましては、今後、来年、再来年と進む中で、支援者を募ったり、いろいろな販売実績を上げたりとかで、予算を確保していければと思います。

実際に1作品つくるのにクリエイターの方にお頼みすると、10万円ぐらいかかるんですね。なので、つくれて1年に1作品だろうというふうには思っております。ただ、1年に1作品は必ずつくれる予算は確保できる見込みがございますので、そういった形で長く続けていければと思います。

(坂井部会長) 私から1点伺いますが、大変夢のある事業かと思うのですけれども、話し手を広げるということで考えると、例えばこれから訪問する施設は、まだ行ってないところが180もあるということですので、そういったところで徐々にやっていけば、紙芝居っていいものだなと。そこにいるスタッフが、自分もこういうのができるようになれば、そういうのを定期的に、その施設でその方ができるということもありますよね。ですから、お金の面でどうかというところはちょっと考えなくてはいけないけれども、そういう形での広がり方というのもあり得るのかなと思いました。

もう一つは、文化として継承して広げていくというんだったら、一応シニアを念頭に置いているのですけれども、若い人を取り込むというのもあり得るのではないかと。例えば学校にそういうクラブとか同好会みたいなものを置いて、自分たちで自作のものをつくって、それを文化祭で発表していくとか、そんなことをすると、つながっていくなということも思いながら話を伺っていました。

それをこの事業でやってくださいということではないんですけれども、将来展開として、少しいろいろな方向性をお考えになるといいのではないかとというふうに思いましたので、ご参考までに。

(NPO 法人紙芝居 Project) 本当におっしゃるとおりで、紙芝居を語ると、夢が広がって

しまっしょうがないんですね。

例えば佐賀県とか、ほかのところでは、実際に市が主催で、手づくり紙芝居コンクールとかされているんですね。だから、私の現在の夢でも、藤沢市と協力をして、後援をしていただく形でいいんですけども、そういった小学生とか中学生とかの手づくり紙芝居コンクールを開催してみたいです。

また、私、保育園を運営しております、保育業界に精通しているんですけども、保育士さんが紙芝居の読み方を習いたいというのは、本当に往々にしてあるんですね。なので、定期的に紙芝居の読み手のセミナーとかも開講しています。ほかの方ですけどね。

なので、藤沢市のそういったセミナーを開講して、読み手として若手にもどんどん育ててもらおうということはやっていきたい事業の1つでもございます。ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

(坂井部会長) ほかに質問はありますでしょうか。——よろしいですか。

それでは、以上で終了となります。NPO 法人紙芝居 Project さん、どうもありがとうございました。

(団体入れ替え)

④Rankup

(坂井部会長) それでは、Rankup さん、「貧困世帯に向けた子ども支援事業」について、発表をお願いします。

(Rankup) 皆さん、こんにちは。Rankup 代表の佐々木俊と申します。本日はよろしくお願ひいたします。

昨年度は補助金を交付していただき、ありがとうございました。今年度も継続して精進してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、「貧困世帯に向けた子ども支援事業～Each Other～」についてご説明させていただきます。

まずは、昨年度を振り返りながら私たちの活動内容についてご説明させていただきます。

私たちの活動内容は2つの柱を軸に行っております。1つ目が子どもの教育、2つ目が貧困世帯への支援となっております。

まず、教育なのですが、地域の方が自身の得意分野、主に学校では教えることが難しい事柄などを子どもに教えるプログラム、Local Lesson を実施しています。

続いて、貧困世帯への支援についてですが、現在、週1回、藤沢市内の農家さんからいただく野菜を、子ども食堂や貧困世帯の方々に提供しています。そして、月に1度、藤沢市内の養護施設の農業体験も実施しております。

今回の Each Other には、ちょうどこの2つの柱の重なる赤いところに含まれております。

昨年度、Each Other なのですが、主に2つの柱があります。1つ目は、野菜を販売する絆市の開催。2つ目は、地域の方から物資を集める絆 BOX の設置。この2つの柱を軸に行ってまいりました。

詳細についてお伝えしたいと思います。

絆市ですが、現在ボランティアの方などを含めて5名程度で運営しております。まず最初に、自分たちの畑で野菜を栽培します。そして野菜の販売をした後に、売上金の一部で物資を購入し、登録団体や貧困世帯に提供する仕組みになっております。ここで言う登録団体というのは、子ども食堂やフードパントリーなどが挙げられます。

さらにこの絆市ですが、現在、栽培ボランティアを募集しております。昨年度から少しずつではありますが、子どものお手伝いもふえてまいっています。そして、この子どもなのですが、野菜栽培を通じて食育を学ぶことができますので、畑での作業は、勉強の学び場としてはふさわしいのかなと思っています。

続いて、絆 BOX についてですが、現在こちらのほうは3名で活動しています。お店に、地域の方々から集められる物資のための絆箱を設置し、それが絆 BOX となっております。こちらの集めたものに関しては、先ほどの登録団体や貧困世帯に分配する仕組みとなっております。

昨年度、補助金の結果、得られた成果についてご説明させていただきたいと思います。

まず最初が、野菜の収量がふえたということです。昨年度、補助金の効果もあり、販売するだけの野菜を収穫することができました。その活動が認められ、現在では、少しずつではありますが、野菜を栽培する区画がふえ始めています。そして、昨年度、半年間ではありますが、何名かの農家さんのところに、私自身、野菜を栽培するお勉強に行き、今年度もその農家さんからの協力は得られている状況です。

2つ目なのですが、ボランティアがふえたということです。こちらでも毎回毎回 SNS の宣伝やチラシなどが効果を増して、ふえてきたのかなと思っております。

3番目なのですが、野菜の提供がふえていること。こちらに関しては、私たちの地道な地道な活動によって、協力してくださる農家さんがふえたことによって、たくさんの野菜が提供できている。これらが成果として挙げられるのではないのでしょうか。

今年度の新しい取り組みとしては、子どもに無料で食事を提供する絆食堂というものを開催いたします。なので、今年度の新しい **Each Other** としては、①、②、③を通じて、支援を行っていきたいと考えています。

ここから絆食堂の詳細について説明していきたいと思います。

現在ボランティアの方を含めて6名程度で運営しています。第1・第3土曜日に子ども無料、そして大人は300円になりますが、食事提供のほうを行っております。

そして絆食堂の認知度を上げるためには、①の貧困を支援している団体や、②の社会福祉協議会様等の行政機関と連携しながら、少しずつ認知度を高めていきたいと思っています。

さらに将来的には、さまざまな世代の方々が訪れる「地域の拠り所」としての地域活性化についても目指していきたいと思っています。

続いて、絆食堂の役割についてお話しさせていただきたいと思います。

①「子ども支援」ですが、無料で子どもに食事を提供しているので、子ども支援につながっていると思います。

②「孤食への解決」ですが、近年一人で食事をとるお子さんが非常に多くなっています。さらに、高齢化に伴い、お一人で住まわれている高齢者の方々も多くいます。その方が月に2回ありますが、私たちの絆食堂を訪れることによって、このような問題解決につながるのではないかと考えております。

③「多様な世代の交流場」ということで、子どもだけでなく、さまざまな地域の方に訪れてほしいと思っています。そこで、世代間を超えたコミュニケーションが生まれ、新しい面が紡ぎ出されていると思います。

そのことによって一つ一つの新しい絆、これこそがまさに絆食堂の真骨頂ではないかと私たちは考えています。

なので、将来的に最終ゴール地点としては、子ども支援だけでなく、このような「地

域の拠り所」を目指して頑張っていきたいと思います。

続いて、将来の展望についてです。

本年度1年目の目標ですが、このような形をとらせていただいています。

①「収入」に関してですが、絆市、絆食堂を合計した年間の数値となっております。

続いて、3年後の収入目標です。3年後ということで、補助金に頼らず、自分たちで持続可能な団体として活動するためには、このような数値目標を設定しました。

さらに、年間70万円という目標を達成するためには、以下の点に力を入れていきたいと思っています。

1番目が、コストを抑えるということです。まず、絆食堂で使う材料に関しては、農家さんからいただく野菜を使いたいと思います。このことはフードロスの削減にもつながっているのではないのでしょうか。次に、家庭から出る生ごみも使って堆肥などをつくっております。このことはコストを抑えるだけでなく、生ごみの削減につながっていると考えています。

2番目ですが、野菜販売を強化しようと思っています。私たちの軸は野菜を栽培することですので、引き続き栽培ボランティアを集めていきたいと思っています。

さらに、私たちの知名度を上げるためには、広報活動をもっともっと強化していきたいと考えています。

3年後の収支目標が達成されれば、年間36万円という収益を得ることができると私たちは考えています。

今回の補助金の主な使い道ですが、このような1番、2番に充てていきたいと思いません。

以上で私たちの話を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

(坂井部会長) 発表は終了しました。

それでは、これから質問させていただきます。質問のある委員の方はお願いします。

(樋口委員) 去年は野菜を栽培するところがメインだったり、お一人で大丈夫かなと思って心配したりしたんですけども、今回は絆食堂のほうが随分盛んに取り上げられています。これは他団体と協力のもとと書かれていますけれども、実際の場所と協力してくれている団体などを教えていただけますか。

(Rankup) 現在、月に2度行っているんですが、藤沢市のコミュニティカフェさんのほ

うで会場をお借りしている段階です。

(樋口委員) 場所はどこですか。

(Rankup) 藤沢のイトーヨーカドーの前の法華クラブの地下にあるふらっとステーションです。

(山岡委員) 流れや仕組みはすごくよくわかりましたし、いいなと思うんですけども、持続していくというところがやはりまだ少し気になっております。例えば今いただいている収支予算書だと、収穫物の買取料が10万円で、絆市の売上高が7万円で、売り上げより買取料のほうが多いように見えてしまうんですけども、そういう理解でいいんですか。

(Rankup) 今、私たちは絆食堂以外でも幾つかのお店に納品もしています。それプラス農業体験のほうも実施していますし、さらに区画面積もふやす予定です。今の状況では、昨年度からの私たちの活動のほうは実施していきますので、地主さんとの関係も徐々に深めることによって、収穫物の買取料に関しては交渉して、減らしていく予定です。

(山岡委員) 今後は減っていくけれども、今の時点では、収穫物買取料が10万円で、売上金が7万円だから、ここだけ見ると赤字ですよ。

(Rankup) ここだけで見たら赤字なんですけど、今、畑を使わせていただいております、先ほども紹介させていただいた教育についての **Local Lesson** というのも畑でやっていますので、そういうのも含めると、赤字にはならない見込みとなっております。

(山岡委員) わかりました。何かそういうこともわかるようにうまく書いていただけるといいかなと思います。これだけ見ると、10万円で買ったものを7万円で売ったのかなと思ってしまいました。

(新實委員) 私も同じところがちょっと気になったのですが、収支予算書のところで、「収穫した野菜は地主の所有物になるので、それらの野菜を買い取り販売するために充当」ということで、借りた土地でできた野菜は地主さんのものになると。

(Rankup) そうですね。

(新實委員) 子どもたちが一生懸命栽培して育てたものが地主のものというのがちょっと私には……。もしそれが自分たちのものになると思えば、もっと収穫量が上がるのではないかと思うのです。地主の方と契約の交渉というのはいさし考えることができるのではないかなという気がいたしました。

(Rankup) 私は農家ではございませんで、農地を借りて、野菜を栽培して、自分で販売することができないという法律になっていますので、こういった形にしかならないというのが現状です。

(新實委員) 勉強不足ですみません。

(Rankup) とんでもないです。ありがとうございます。

(坂井部会長) 今の点で念のための確認なんですけど、畑は、農家さんの畑を無償で使わせてもらっているという理解でいいんですか。

(Rankup) 少しわかりにくいと思うんですけども、無償ではなく、収穫物の買取料をいわゆる土地の使用代として充てているということになっています。

(坂井部会長) 収穫したものを販売しますよね。その販売収入を充てているということですか。

(Rankup) 先ほどもお伝えしたんですが、現状、農家でない私が土地を借りることはできませんので、土地の使用料としての買取料 10 万円になっています。

(坂井部会長) そういうことなんですね。要するに実際には作物をつくる。

(Rankup) 地主さんのかわりに自分が栽培しているという体（てい）です。

(坂井部会長) 土地の使用代という名目ではないんだけど、実質そういうことだということですか。

(Rankup) そうです。

(坂井部会長) それを将来そのスタイルでもう少し広げていきたいということですね。

(Rankup) そうです。

(坂井部会長) 特に市民農園とか、そういうところを借りるということではないということですか。

(Rankup) 市民農園のほうはまだ区画が狭い状況です。それでしたら、こういった活動をして団体が運営していくためにはやはり大きく借りたほうが良いと思うので、今このようなスタイルをとっています。

(山岡委員) そうしますと、14 枚目のスライドの「将来の展望」で「3年後の収入目標」が「年間 70 万円」と書いてあります。入ってくるほうは 70 万円ですが、出るほうについてはどうでしょう。収入に対して支出はどのように見込んでおられるのでしょうか。

(Rankup) 支出のほうは、トータルなんですけど、17 枚目のスライドで、30 万円と考

ています。それは先ほどの野菜の買取料も含めた金額になっています。

(山岡委員) では、その 30 万円である程度目指す活動ができるという理解でよろしいですかね。

(Rankup) そうです。

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、質疑は以上で終了とします。Rankup さん、お疲れさまでした。

(団体入れ替え)

⑤特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画

(坂井部会長) 特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画さん、「性について☆10代と本音の出前授業‘22」、発表をお願いいたします。

(特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画) よろしく申し上げます。

昨年度もステップアップ支援コースのほうでやらせていただきました。継続して、ことしもお願いしたいなと思っております。

性についての授業ということで、まず、私たちの団体なんですけど、2016年からは、湘南まぜこぜ計画では、子どもの居場所づくりというものをやってきました。その中で、子どもたちがだんだん大きくなり、今、中高生になりつつあります。その中高生たちが、性について、最近興味を持ち始めるようになり、正しい情報を知りたいということで、この授業が始まっています。

子どもたちが性について知りたいと言っているのですが、実際に私たち大人も、じゃ、どこから教えたらいいいのか、すごく悩みました。そこで、産婦人科医の遠見才希子さんという方から、性についての正しい情報を知ろうということで、まず、昨年度の4月に講演をしていただきました。

その中で、子どもたちが実際に、この遠見才希子さんから聞いたお話を自分たちと同じ世代の人たちにも伝えていきたいという話が出てきて、今回のこの性教育に関する授業を行うことになりました。

昨年度やったことについて、簡単にご紹介したいと思います。

昨年度は、授業で行う教材づくりを準備してまいりました。実際に授業は現役の高校生が行う予定になっています。これは練習風景なんですけれども、彼女がパワーポイントをみずからつくり、練習も重ねながら準備を進めています。

実際に中学3年生に授業を行いたいと思っていて、中学3年生が話を前向きに聞いてもらえるように、彼女なりにすごく工夫をして、行っています。例えば、LINEの会話風な内容であったりとか、彼女らしい、高校生らしい言葉を使った内容だったりとかで、親近感が湧くような内容で行っています。

昨年度は、1コマ分の授業の内容をつくり上げることができました。そこで、中学3年生に向けて授業を行っていこうということで、まずは模擬授業を行うことになりました。

各中学校に、このような模擬授業を行いますということで、中学校の先生方に周知をして、数名、養護教諭の先生方が授業を見に来てくださいました。その先生方からは、授業の内容はすごくいいということで、学校でも取り入れたいというお話をいただくことができました。

その後、ある中学校で、PTA主催ということで、再び模擬授業という形で、保護者の方に数名、授業を見ていただきました。保護者の方からも、ぜひ自分の子どもにも聞かせたいということで、印象のいいお返事をいただくことができました。

ただ、最後に、校長先生の許可がないと授業ができないということで、校長先生に授業を見ていただいたんですけども、やはり学習指導要領を少し超えてしまっているのので、「私、校長からは許可をおろせません」ということで、昨年度は子どもたちの前で授業を行うことができなくなってしまいました。

昨年度の経験から、やはり学校で授業を行うことのハードルが高いということを経験した1年になったと思います。ただ、保護者の方であったり、養護教諭の方、あとは一般の市民の方にも授業を見ていただいたのですが、大人の方々からは、すごく印象いいお返事をいただいているので、ぜひ子どもたちにもとかいうお話があるので、今年度は、学校に声をかけるのももちろんなんですけれども、PTAだったりとか、そういう切り口で子どもたちに話が届くように進めていきたいなと思っています。

また、まずは多くの学校の先生にこのような授業を行いたいというのを教えてもらいたいなと思っています。昨年度は、このようなチラシを各校に配ったんですけども、チラシだけだと、どのような授業を行うのかがなかなか見えてこないのかなと思ったので、実際の出前授業がこのようなものだよというダイジェストのような動画を作成して、各学校に配布したり、動画を見ていただけるような環境もつくっていききたいなと思って

います。

昨年度、さまざまな課題が見えてきたので、今年度はそれを一つずつ、ちょっとずつ解決しながら、一人でも多くの中高生に正しい性の情報を伝えていけたらなと思っています。よろしくお願いします。

(坂井部会長) では、発表が終わりましたので、これより質疑に入ります。質問のある委員の方、お願いします。

(大場委員) 私はまだちゃんと資料を読み込めていないので、見当違いな質問だったら申しわけないのですけれども、実際、学校での授業が難しいということで、もちろん公の、広く見ていただくにしても、例えば公民館であったりとか、学校以外の施設でやる、そういう計画はおありなんでしょうか。

(特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画) もともとこの企画をスタートしたときに、全ての子どもたちに正しい性の情報を伝えたいという思いがありました。中学3年生にちょっとこだわっていたところは、義務教育が中学生で終わってしまう。高校に行く子は、高校で結構、性の授業を受けるんですけれども、そうなってくると、高校に行かない子は、正しい情報を得ないまま社会に出ていってしまうというのがあるので、やはり義務教育、学校であれば、ほとんどの子たちが必ず通ってくる道ではあると思うので、そこで学校でぜひやりたいという思いがあります。

(坂井部会長) 私からお伺いします。ご説明の中で、学習指導要領を超える部分があるので、許可は難しいというお話がありましたが、学習指導要領の範囲で、じゃ、できる形でつくるということはお考えになっていないということでしょうか。

(特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画) この事業をやる目的としましては、今、中学校の先生たちも、養護や保健の先生なんかも、実際にこれでは現実に追いついていないということを個人個人ではおっしゃられるんですけど、どうしても学校側の責任でとなると、そこがやはりネックになるという現実があります。

でも、提供したい内容は、今ありましたとおり、性的な同意ということですか、避妊の具体的な方法ということが、どうしても指導要領を少し超えていく、グレーゾーンという扱いになっているわけです。ここは私たち、去年ずっと議論してきましたけど、子どもたち自身が、やはりそこを伝えなきゃ意味がないとみんな思っていますし、それを伝えることに今、何が問題なのか PTA の人たちに聞きましても、そこをぜひやって

ほしいと。

親御さんたち、保護者の世代も、ちゃんと教わった世代ではないので、そこを誰が責任を持って教えるのかというところにこの事業の意義があると思っています。学校側は、学校が主催する形ではなかなか難しいとは言うんですけど、PTA からの要請があればということは、この1年間、感触として大分見えてきたので、今回は、そういう意味では PTA からこれを発議していただくような形を追求したい。内容的には、去年のものを今、よりブラッシュアップしているところなんですけど、基本的な線は変えないで進めたいと思っています。

(細沼委員) 昨年も、やはり中学校を中心というお話で、結局1校でできたとお見受けするんですけども、今年度も、計画書を見ますと、3分の1、6校ぐらいと書いてあったので、結局そこはまだ確約が取れていないということですよ。

PTA とおっしゃっていますけれども、藤沢市内は PTA を持っている学校が少ないというか、うちの地区はゼロなので、そこを PTA を通してというのも、ちょっと厳しいのではないかなと思いました。

(特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画) 一つには、19 校の校長先生にアポをとって、直接お会いしていくということもあると思っています。もう一つは、これまでに4人の養護教員の方に、この授業内容で見ていただいて、どなたも非常に評価が高かったので、まずは養護の先生から話を進めることも手だと思っているのです。

ただ、学校側の、そこを超えていくのに今一番効果的なのは、PTA が主体的にこれを実施しようということでも声を上げていただけることだと思っています。去年の最後のこの呼びかけで、ある中学校でやったときに、その中学の PTA ではない、ほかの学校の PTA の方も見に来られた。そういった PTA 同士のつながりがあるところでは、これをまずは真っ先に進めていただきたいと思って、計画をしているところです。

なので、今回 19 校のうち、3分の1程度となったのは、一律にはいかないだろうと思っています。その環境に合わせてアプローチをしていくということの必要性を去年学んだということでご理解いただきたいと思います。

(新實委員) 子どもたちに、特に望まない妊娠を防ぐためにも必要な教育だと思うんですね。高校生の養護先生も頑張っておられて、人権としての、女性としての権利ということも含めて、総合的な指導をされていると思うのですが、なかなか難しい、微妙な内容

になって、公の学校として許可が出にくいというのも非常にわかる現状なんですね。

まず、全ての子たちに性教育を施すという理想はすごく素晴らしいと思うのですが、その中で「全ての子ども」と言いながら、公立だけというのはどうなんだろう。私学なんかでは、学校長とかトップの裁断が非常に大きいので、もしかすると私学のほうがスムーズにいくかもしれないということが私は一つ気になりました。

あと、遠見先生の話を持ってこられて、子どもたちが動いたというその流れは非常に素晴らしいと思います。そのことを現在のリアルな子どもたちに伝えるには、学校を対象にしているのかどうか、私はちょっと疑問に思ったのです。それが打破できない場合はどのようにするのか。せつかく高校生たちが一生懸命考えてつくったのが無駄にならないような形にしていきたいなと思いました。感想になってしまいました。

(坂井部会長) もし一言コメントがあれば。

(特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画) 私学もぜひやりたいなと思っています。

先ほど説明をしたように、義務教育の終わるまでに、全ての子どもにということを考えて、まだ中学3年生にこだわってはいるんですけども、ことしはそれだけではなく、高校1年生になった子どもが、高校ではこんな内容で授業をやったよと、この間、教えてくれたりした。でも、その学校だけだったりする。ほかの学校、高校ではまちまちなんですね。なので、高校でもアンケートをとって、中学を卒業した子どもたちがどういう意識で高校に来ているのかということもリサーチしながら、高校とも連携がとれたらいいなと思っています。

それは公立にとどまらず、児童養護施設においても、実はオファーがありまして、ぜひこういうことを一緒にやれないかという話をいただいているので、そういう場も含めて、今回はいろいろチャレンジもしながら、でも、そういう世論を通じて中学3年生に、本丸にはそこにたどり着けるようにしたい。

今後は、ユーチューブとかそういう動画配信で共催の内容を先ほどお伝えしたように、見て、ご理解いただけるようにしていきたいと考えていますので、ここにとどまらず、次の展開は無駄にならないように、高校生、大学生たちの努力が必ず日の目を見るようにしたいと思っています。

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画さんの発表、質問を終わります。お疲れさまでした。

(団体入れ替え)

⑥湘南市民ワークショップ

(坂井部会長) 続きまして、湘南市民ワークショップさん、「インクルーシブ芸術と創作～藤沢をテーマに」について、発表をお願いします。

(湘南市民ワークショップ) 湘南市民ワークショップ代表の清水です。本日はオリンピック選手も多く育てているアーティスティックスイミングの宮崎コーチと2人でプレゼンさせていただきます。よろしくお願いいたします。

当団体は、市民講師のメンバーが多いのですが、3つの目標を軸に活動しています。さまざまなジャンルのワークショップを開催し、一般企業や商業施設での出展の機会もいただいています。講師同士の交流や、勉強を進めるために、必ず月に一度の定例会を行っています。市の主催としてワークショップを行う機会もふえまして、市民講師のイベントにも毎年参加しています。

そんな私たちが2019年に立ち上げたプロジェクトが「浜辺の歌サンバ 2020 人で踊ろう!」。藤沢ビッグウェーブのアイデアソンで採択されました。具体的には辻堂海岸のイメージでつくられた「浜辺の歌」を楽しいサンバにアレンジし、オリジナルのパフォーマンスを制作。パラリンピックを応援する気持ちも込めて、障がいの有無を超え、年齢、性別を問わずに楽しめるよう工夫しながら、サンバ演奏、ダンス、「なんちゃってシンクロ」、フープのチームなどを発足。ほかの団体とも連携し、オリパラの公式応援プログラムの認証も受けながら、湘南各地で撮影、パフォーマンスを行いました。

コロナにより、オリパラ自体も延期となりましたけれども、ワークショップを楽しみにしてくれている皆様の期待に応えるため、オンラインで開催することを決意。2020年に初めてミライカナエルのサポートをいただき、実現することができました。団体紹介パンフレットも、これで初めてつくることができましたし、このパンフレットにも載せておりますけれども、オンラインならではの利点も多く、福島とも距離を超えて交流を深めることができました。そして、コロナで部外者が立ち入れない障がい者施設とも、練習や成果発表ができました。

こちらの、こことここが障がい者施設です。そして、全盲の方も、黄色い服を着た方ですけれども、自宅からリピート参加をしてくださっています。

そして、福島との交流コンサートも、オンラインで開催することができ、読売新聞で

も大きく取り上げていただきました。

こちらは昨年3月の様子ですけれども、ことしの1月にも有志が福島まで行って、オンラインのワークショップとコンサートを開催しました。また、宮崎コーチの「なんちゃってシンクロ」講座も、リピーターがふえて、オリンピックを目指す選手の皆さんも演技を披露してくださったり、盛り上がっています。

そして、昨年5月には、リアルと Zoom、両方で練習を行い、いよいよ江の島をバックにドローンも含めて撮影。湘南の魅力を伝えるプロモーションビデオとしてユーチューブで公開しています。ご参加された皆様から、「本当に楽しかった。またやりたい」とアンケートをいただいていますし、ほかにもたくさんの方が、ご自宅やご自身のサークルで「浜辺の歌サンバ」を撮影して、当団体のユーチューブチャンネルで公開しております。

オリパラの後もレガシーとして活動を続け、ふれあいネットワークの助成を受けて、福島津波で被害を受けた古民家と Zoom でつながり、共演できましたし、シンクロ選手になり切ったヘアメイク講習もこのように行って、皆様、ノリノリでした。

そして、藤沢ビッグウェーブのアーカイブ冊子でも大きく取り上げていただきまして、ビッグウェーブやミライカナエルの事業として貴重な経験を積むことができます。これらの成果を踏まえ、今年度は「インクルーシブ芸術と創作～藤沢をテーマに」に取り組みます。コロナに負けない活動を継続。年齢、性別はもちろん、障がいや LGBTQ も超えて、誰もが参加できるパフォーマンス制作を目指します。

今まで、全盲、聾、半身不随、身体・知的障がい者施設からもご参加いただいておりますが、当事者だけでなく、関係者、お客様からも大変好評です。

あと、受講生から、劇団をつくってほしいという要望がありまして、Zoom 参加でもオーケーという形で、昨年から定期的に稽古しているのですけれども、ホールでの発表会でも、持病のある方がご自宅から Zoom で声だけで演劇に参加して、ホールのほうでは身体表現だけで、お二人で一役を演じるというハイブリッド型をやりました。新しい演劇の可能性を感じると、大変好評をいただいたりしました。

あと、聴覚障がいの方が、聞こえないのに朗読ワークショップに参加してくださったり、全盲の方が盆踊りに参加したり、こちらも予想を超える反応があり、しかも「楽しかった」とおっしゃるので、こちらも思い込みや遠慮があったかもしれないと、新たな

気づきがありました。ついきのうも、養護学校の先生からも連絡があつて、授業で生徒たちと交流して、一緒に歌をつくってほしいなんて話もあつて、新しい展開もありそうです。

そして、私たち団体メンバーは、さまざまなジャンルの専門家であり、プロですので、それぞれノウハウを生かしながら、本格的なジャンルを超えた総合パフォーマンス公演を、ことし目指したいと考えています。私自身は、音楽やダンスの舞台上で LGBTQ 全ての方と共演していますし、違いを認め合うからこそ得られる楽しさ、自由さを音楽やアートを通していつも実感しています。

あと、有名ゲストを迎えてのオンラインイベントなどもやっておりますので、講師をお願いする人脈とか、プロとしてのオンライン配信の経験なども今回の事業で生かしたいと考えています。

また、先ほどの「浜辺の歌サンバ」のプロモーションビデオも、江ノ島水族館の近くで撮影しているご縁もありまして、新江ノ島水族館とのコラボを進めています。4月から私たちも、えのすい主催のビーチクリーンに毎月参加し、海や環境を守る大切さを学んでいます。

そして、こちらの江ノ島イルカ部さんとのコラボも進めつつあります。

さらに、江ノ島水族館の展示についても、本当にご親切にご案内くださって、遊びながら本格的に学ぶことができるエデュテートメント型の水族館だと教えていただいて、毎日クラゲの採集をして、このように展示しているブースもある。なので、えのすいが世界初、発見、展示しているワタボウシクラゲをテーマに、当団体は市民との協働でオリジナルソングの歌詞をつくったりすることで、楽しみながら、えのすいとともて地元の縁や生物について学べるようにしたいと考えています。

このワタボウシクラゲのランプを簡単につくれるワークショップも、プロの美術作家さんに試作していただいて、つくり方も解説書もつくってくださっているのですけれども、パフォーマンスやダンスの小道具、演劇の舞台美術にもしたいと思っています。

宮崎さんも、なんとクラゲダンスを考えて、スカートをつくるワークショップも準備されたり、えのすいとのコラボも実は宮崎さんの発案なので、ちょっとお話しいただいてもいいですか。

(湘南市民ワークショップ) えのすいは商業施設ですので、いろいろかかわりは難しいと

ころですけれども、きっかけとしては、グループホームにいた私の母がみんなで見学に行ったときに、いろいろワクワクしていた。私も水泳関係をやっているので、水を見るいろいろな夢が膨らんで、そこから館長さんにお手紙を出しましたら、奇跡的に面会をしていただきまして、今いろいろな構想を練っております。そういうことで進めていけたらと思っています。

(湘南市民ワークショップ) いろんな偶然が重なって、えのすいさんともコラボができそうなんです、クラゲランプと同じ作家さんに、このように竜の制作もしていただいています、今のところは藤沢・江の島の伝説「天女と五頭竜」をテーマに、総合的なパフォーマンスをつくりたいと考えています。

このように、活動を活性化し、広報も強化し、団体の講師メンバーをふやして、講座のジャンルもふやして、ワークショップ参加者もふやす努力をしながら、団体運営の自立化にもつなげたいと考えています。ぜひミライカナエル事業のサポートをいただければ幸いです。

ご静聴いただき、ありがとうございました。

(坂井部会長) 発表が終わりましたので、これより質疑に入りたいと思います。質問のある委員の方は、お願いします。

(関野委員) 収支予算書を拝見しまして、報告というところが、参加された方にもすごく重要で、団体さんとしても、その成果を見せることが非常に重要だということはわかるのですが、謝金の中のホール公演関連のところが結構大きい額になっています。その、結構厳密な計算をされているかとか、ここの配信とか音響とかをお願いしている人のレベル感というか、そういうところをある程度ご説明いただけたらと思います。

(湘南市民ワークショップ) 今までは、今回もそうですけれども、できるだけ低料金でワークショップを行い、そして、できるだけ間口を広げることを考えていたのですけれども、もっと本格的な舞台を、障がいの有無を超えてやれたら、もっと励みになるんじゃないかなと考えるようになりました。

今のところ、ホールや音響ライブ配信は、国際新堀芸術学院を想定しています。私自身、新堀学院の文化祭に何度もゲストとして呼んでいただいて、ライブさせていただいており、ホールの様子、音響、照明なども体感しておりますし、新堀の先生方とも交流がありますので、実際にご相談にも行って、この予算を設定しております。

(山岡委員) 関連する質問なんですけど、経費のほとんどがホール公演ですよ。ほぼほぼホール公演にかかわる費用と言っていいかと思います。本格的な公演ができれば励みになるとおっしゃっておられて、それが大事なんだなというのはわかるんですけど、それは参加者からそういう声が上がったということですか。

(湘南市民ワークショップ) はい、そうです。今までも初めは、稽古は町内会館とかでやり、会議室で発表したんですけど、やっぱりさらにホールでやりたいという夢が広がって、ホールでもやった。先ほどの写真ですけどね。

でも、これはやっぱり照明がないんですよ。本格的な照明とかがあって、暗転とかもできたり、舞台裾からちゃんと出入りができたりという本格的な演劇を体験したいという意見もありますし、私自身がプロとして文化庁とか神奈川県から助成をいただきながら活動しておりますので、そういうのを体感してほしいという気持ちもあります。

でも、ホールだけが目的ではなくて、謝金でかなり大きいのは、演技指導とか、五頭竜の話も、今の時代と組み合わせたり、ちょっとコミカルにしたりとかで、子どもたちにウケるように、クラゲダンスも組み込むとか、江ノ島水族館の学びも組み込むとか、ちょっとオリジナルのストーリーにしたり、プロの方の脚本とか演出をお願いしたいと考えています。一旦形ができてしまえば、脚本とかダンスとか音楽とか、ある程度できてしまえば、私たちメンバーだけで今後続けていきたいと考えております。そういった費用があります。なので、ホール公演も目的ではもちろんありますが、オリジナルの総合的パフォーマンスをつくるという費用に今回重視しているところです。

(山岡委員) 50万のうちライブ配信と音響、照明で30万円ですから、5分の3がホール公演にかかわる費用、そういう理解でいいでしょうか。

(湘南市民ワークショップ) ライブ配信は、やはりコロナ禍で、もし無観客とかになったとしても、やりたいと思っていますし、今までもずっとオンラインでコンサートなどをした場合は、私たちのYouTubeチャンネルに公開していますので、記録として残して、湘南の魅力を伝える。こういった藤沢をもとにした民話とか、インクルーシブなパフォーマンスの魅力を皆様に広く知っていただくために、ライブ配信はやりたいと考えています。

(坂井部会長) ほかにいかがでしょうか。

では、私から、今の質問にも関連するんですけども、経費が大分かからざるを得な

い事業であるということですよね。それに対しての財源というのは、自己資金はもちろんあるんだけど、現実として、外部資金に依存せざるを得ないのかなと。

例えば、ホールの公演というのはどのぐらいの所用時間のものなのでしょうか。

(湘南市民ワークショップ) 今までには体験ワークショップ、その場で飛び入りで参加していただくのと、公演なども含めまして2時間、3時間のイベントが多かったので、今のところ同じような時間を考えております。

(坂井部会長) 単独公演というのと、会場を借りる費用から全部自分で丸抱えしなくちゃいけないということですけども、コンパクトに、時間がうまく使えるのであれば、ほかのものと組み合わせる、相乗りするというやり方もなくはないのかなとちょっと思いながら、この予算書を見ていたんです。

(湘南市民ワークショップ) そうですね。ほかの団体さんとも今までもコラボしていますが、そういった形もできたら、さらにすばらしいなと私も思います。ありがとうございます。

(坂井部会長) ちょっと持続可能なやり方をいろいろ検討されるといいのではないかなと、この感想として持ちました。

(湘南市民ワークショップ) 今までには全て、観覧も無料にしているのですが、入場料を例えば有料にしていって、みんながもっとプロ意識を持つとか、ワークショップも本格的になれば、参加者の方たちのレベルが中級、上級ともっと上がって行って、高いワークショップ参加料でも参加したいという方がふえていけば、そういう形で今後は自分たちで何とか自立していきたいと考えています。

(坂井部会長) ほかの委員の皆さん、何かありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、ちょうど時間になりましたので、これで湘南市民ワークショップさんの関係は終わります。どうもありがとうございました。

(坂井部会長) 以上で全ての団体のプレゼンテーションが終了しました。団体の皆様、大変お疲れさまでした。それぞれ活動への思いの伝わる、すばらしいプレゼンテーションだったと思います。

ここで事務局にお返しします。

(事務局) 坂井部会長、ありがとうございました。

採択結果は後日郵送にて通知させていただきます。

以上をもちまして、本日の公開プレゼンテーションは終了となります。

委員の皆様は、休憩をとっていただきまして、3時50分から引き続き本会場で審査会を行いますので、よろしくお願いいたします。

発表団体の皆様、傍聴者の皆様におかれましては、出口にてアンケート用紙を回収させていただきますので、ご協力いただけた方はご提出の上、お忘れ物のないようお気をつけてお帰りください。

この後、こちらの会場を使用いたしますので、大変申しわけございませんが、速やかなご退室にご協力いただきますようお願いいたします。

また、本日、朝日町駐車場にお車をとめた方は、駐車券を事務局職員へお渡しください。認証機の処理をさせていただきます。

では、本日はありがとうございました。

(団体退室)

÷÷÷

午後3時37分 休憩

午後3時48分 再開

÷÷÷

(2) 審査選考

(藤沢市情報公開条例第6条第3号に基づき非公開)

÷÷÷

○スタート支援コース・ステップアップ支援コース審査選考部会において、スタート支援コースの採択団体は「すまいるらぼ」「特定非営利活動法人ぐるんとびー」、ステップアップ支援コースの採択団体は「NPO 法人とことこ」「NPO 法人紙芝居 Project」「Rankup」と決定された。

藤沢市市民活動推進委員会

(山岡委員長) 皆様、大変お疲れさまでした。特に、坂井部会長、お疲れさまでした。

ミライカナエル活動サポート事業実施要綱では、本委員会が審査選考を行い、その結果を市長に報告し、市長はその報告内容に基づき、適当と認める事業を決定することとなっていることを申し添えます。

ただいま審査選考部会において、スタート支援コース、ステップアップ支援コースの採択団体を審査選考していただきました。中立公正な立場から丁寧にご審査いただいた結果ですので、この結果を委員会での決定事項として、市に報告させていただきます。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

(山岡委員長) ご異議ございませんので、以上を委員会での決定事項として、ここで市にご報告をいたします。

それでは、最後に、事務局より連絡事項をお願いいたします。

(事務局) 審査選考をありがとうございました。採択結果につきましては、後日団体へ郵送いたします。また、結果の送付に合わせまして、本日、団体への意見表にご記入いただいた審査意見も団体に送付させていただきます。

なお、ご記入いただきました団体への意見表はお持ち帰りにならず、事務局へご提出いただきますようお願いいたします。

では、次回の委員会ですけれども、今回は8月26日、金曜日、午後6時からとなります。詳細につきましては、後日、開催通知等でご案内させていただきますので、ご確認くださいませようお願いいたします。

最後に、本日、朝日町駐車場にお車をとめた方は、駐車券を事務局へお渡してください。認証機の処理をさせていただきます。

事務局からは以上です。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

閉会

(事務局) 審査委員の皆様、真摯な議論をありがとうございました。この後、今採択して

いただいた5団体もそうですし、採択されなかった3団体の方にも、先ほど事務局から話があったように、採択されなかったという通知を出しますので、この後は市のほうでしっかりと説明責任を含めてやらせていただきます。ここまでご協力いただきまして、ありがとうございました。

我々も、先ほどこの議論の中でちょっとあったような、この制度のあり方というところは、事務局でも少し議論をしながら、企業さんでとか、株式会社さん、この後、協働事業でもありますけれども、一方で、そういう団体であっても、市民を巻き込んだ市民活動というところに企業のCSRとか社会的責任としてやっていただく分には、市も協力していかなければいけないということがあって、非常に難しい部分ではあるのですが、ただ、こういった事業ですので、そこはしっかりと事務局側も議論して、皆さん方が疑問にならないように、しっかりと選定できるような制度にしていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

(山岡委員長) それでは、以上をもちまして第4回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

午後5時 閉会